

The Green Door
緑のドア

P.141

大都市ニューヨークでは、冒険がいつも待っている。

全ての角で、目が私たちを見ているか、指が私たちを指している。

冒険がそこにある。

しかし、私たちのほとんどがそれを一度も目にすることはない。

ルドルフ・ステイナーは、本物の冒険家だった。

異なる何かを探して彼が出かけない夜はほとんどなかった。

彼はいつも次の角を負かったところに何が待っているのか興味があった。

ある晩、ルドルフは都市の古い地域の通りをゆっくり歩いていた。

その晩はたくさんの人がその通りを歩いていた。

家に帰っている人たちもいた。

他の人たちは、どこかのレストランへ夕食を食べに向っていた。

彼はにぎやかなレストランを通り過ぎ、その隣には開いているドアがあった。

そのドアの上には、ドクターのオフィスの看板がかかっていた。

とても大柄な男がそのドアの所に立っていた。

彼は、通り過ぎる人たちにカードを渡していた。

ルドルフは、そのような人を以前に見たことがあった。

そのカードには、3階のドクターのオフィスの名前が書いてあるのだろう。

ルドルフは見ずにそれを受け取った。

さらに歩いてから、彼はそのカードを見た。

彼は驚いた。